

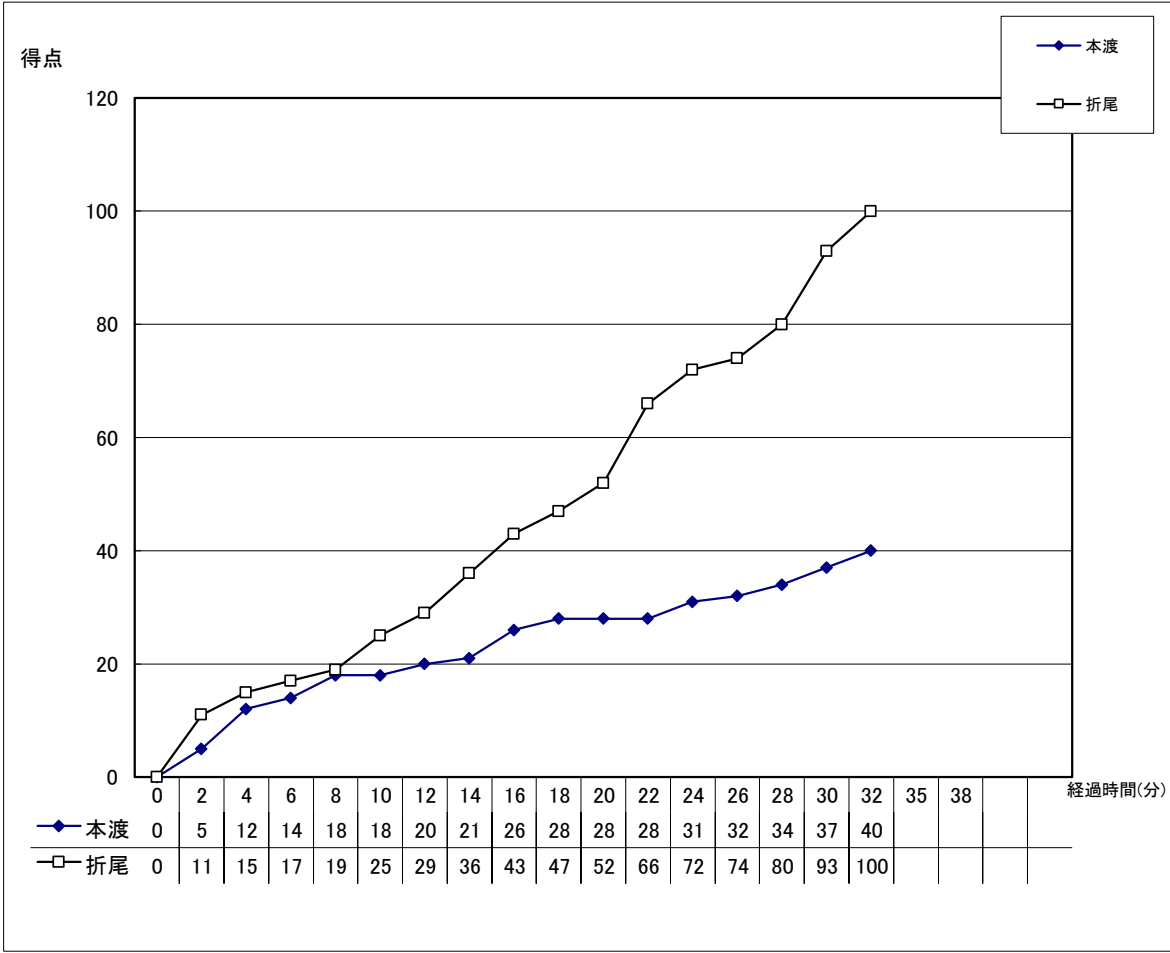
令和5年度 第53回九州中学校バスケットボール競技大会

個人データ表

女子準決勝		令和5年8月10日		9:30 開始	
		会場： ナースパワーアリーナ		Aコート 第1試合	
		主審： 東郷		副審： 小田原 石嶺	
本渡 熊本	40	18 8	1 Q 2 Q	19 24	100 ☆ 折尾 福岡
		5 9	3 Q 4 Q	29 28	

本渡												
番号	氏名	得点	3P	3P試投	2P	2P試投	FT	FT試投	反則	DF. RE	OF. RE	RE計
○ 4	谷山 憩	7			3	8	1	1		2	2	4
5	大塚 朋	2				4	2	3	1	1	1	2
6	宮本 明奈	5	1	6		1	2	2	1			
7	金子 和叶	3			1	5	1	2	1			
○ 8	龍石 綺星					4			2			
9	荒木 悠花			3		1					1	1
○ 10	上口 凜華	4			1	3	2	2	1			
○ 11	玉木 さくら	13	2	4	2	9	3	4		2		2
12	松下 莓	4		1	2	3			2			
13	山下 優莉			2								
○ 14	川口 日香	2			1	2		2	2	2		2
15	倉田 真希									1		1
16	山形 煌											
17	上嶋 利依紗											
18	田中 真央											
コーチ 端迫 亜伊												
合計		40	3	16	10	40	11	16	10	8	4	12
成功率			18.8%		25.0%		68.8%					

折尾												
番号	氏名	得点	3P	3P試投	2P	2P試投	FT	FT試投	反則	DF. RE	OF. RE	RE計
4	山崎 琴音	6			3	3			1		1	1
5	奥殿日南子	12			5	5	2	2	2	1	1	2
○ 6	境 さらさ	1				2	1	2	2	1	1	2
○ 7	上田 美月	8			4	5				1		1
○ 8	大湾 愛佳	20			10	17			3	3	3	6
○ 9	荒井 珠愛	5	1	5	1	1			2	2		2
10	浅野 凜珠	10			5	5				2		2
11	豊嶋 華香	2			1	1				2	1	3
12	新田 裕月	4			2	2			2			
13	三宅 優南	6	2	2								
14	下町 琉伊									1	1	2
○ 15	山内 碧悠	13			5	12	3	4	2	3	2	5
16	目瀬 汐莉	6	1	2	1	1	1	1	1	1	1	2
17	佐多 菜智	5	1	1			2	2				
18	吉竹 遥乃	2			1	1			1		1	1
コーチ 下川 俊宏												
合計		100	5	10	38	55	9	11	18	17	12	29
成功率			50.0%		69.1%		81.8%					



戦評

女子準決勝、本渡中学校(熊本)と折尾中学校(福岡)の対戦。

1Q: 両チームともにハーフコートからディフェンスが始まる。折尾#15からリング下の#8へのパスがとおり先取点。続けて#8のオフンスリバウンドから連続得点。#8のリング下での強さが際立つ。その後も#6のカットイン、#15のリング下、#7のミドルシュート等で加点していく。折尾の固いディフェンスに攻め手をかく本渡は残り6分22秒でタイムアウトをとり、本渡#11へ#4や#10、#14がハイピックを仕掛け、本渡#11の切れ込みを呼び込む作戦をとる。ボールが回り出し、ハーフコートオフンスのリズムが出てきた本渡は、#10のミドルシュート、#11番の3Pを2本とミドルシュート1本を沈め、ほぼ互角のゲーム展開となる。18-19で1Q終了。

2Q: 折尾#8のリバウンドシュートから、#7のドライブ、ジャンプシュート、速攻、#6のドライブまたリング下#8へのパス、#15のオフンスリバウンド、#9の速攻、3Pとコートに出た折尾のプレイヤーが次々にパフォーマンスを発揮して一気に点差を広げた。一方、本渡はリング下のシュートを止めようとヘルプを頑張るが少し及ばず。オフンスは果敢にゴールヘアタックしてファールを誘い、フリースローを得ることはあったが、#11へのハイピックからのハーフコートオフンスの展開が抑えられるようになり得点が思うように伸びなかった。26-43で2Q終了。

3Q: 両チーム、スタートメンバーを変えてのスタート。折尾は前半のハーフコートからオールコートマンツーマンプレスでのディフェンスに変更。一方、本渡は前半と同様ハーフコートからのディフェンス。折尾は#7からリング下#15へのパス、#5のジャンプシュート、ミドルシュート、#16、#17、#18のリバウンド、ジャンプシュート、ドライブ、3Pなど次々に得点し点差が広がっていった。本渡は折尾のオールコートマンツーマンプレスに対しドリブルとパッシングでかわしてボールを進めるが、オフンスのリズムが掴めず苦しい展開となる。そういう中、#7、#9、#12の1対1からのドライブでゴールアタックをかけるなど最後まで必死に食い下がる姿が印象的であった。31-72で3Q終了。

4Q: 折尾はメンバーを変えてのスタート。折尾は#10のリング下から始まり、#12のドライブ、#4の連続ミドルシュート、ターンオーバーからの#4のドリブル速攻と攻撃の勢いが止まらず、その後も#13の3P、#11のリバウンド、マンツーマンプレスのターンオーバーから速攻、#12のドライブ、#13の3Pなど選手の層の厚さとスキルの高さを示していた。本渡も#5の果敢なオフンスリバウンド、#7のパスカットからの速攻、#6の3Pやドライブと持っている力を全て出し切ろうとする姿が見る者に伝わるような戦いぶりであった。40-100で試合終了。折尾が全国大会への出場権を獲得した。

戦評記入者: 永田博徳(山鹿市立山鹿中学校)